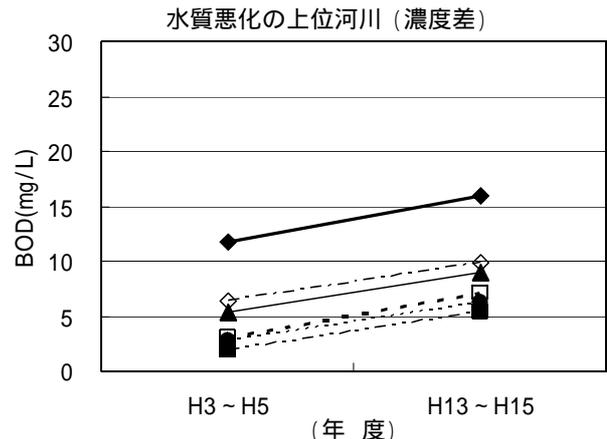
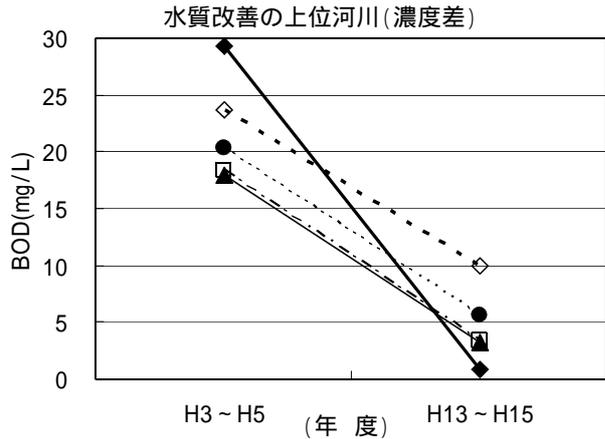


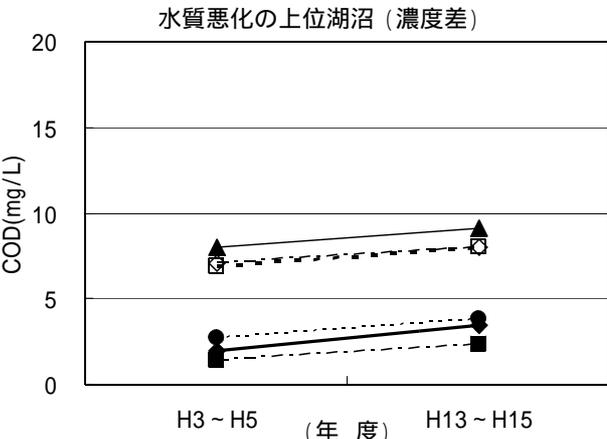
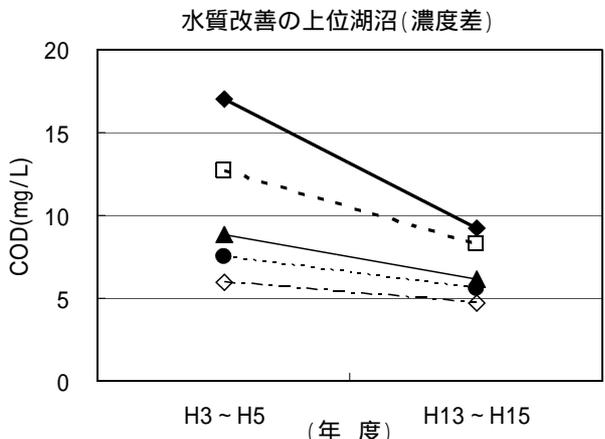
(参考9) 濃度差からみた水質改善・悪化上位水域

(1) 河川における濃度差 (BOD、mg/L)



濃 度 差									
水質改善の上位河川					水質悪化の上位河川				
順位	凡例	あてはめ水域名	県名	濃度差	順位	凡例	あてはめ水域名	県名	濃度差
1		いほがわ 揖保川下流	兵庫県	-28.4	1		かしいがわ 櫻井川下流	大阪府	4.3
2		たけひさかわ 武久川水系	山口県	-14.9	2		かもがわ 加茂川	千葉県	4.0
3		ありもとがわ 有本川	和歌山県	-14.8	3		たかせがわ 高瀬川	香川県	3.6
4		しんさかがわ 新坂川	千葉県	-14.7	〃		おきのはたがわ 沖端川下流	福岡県	3.6
5		ふるうがわ 不老川	埼玉県	-13.8	5		しんかわ 新川下流	千葉県	3.4
					〃		ちゅうがんじがわ 中元寺川上流	福岡県	3.4

(2) 湖沼における濃度差 (COD、mg/L)

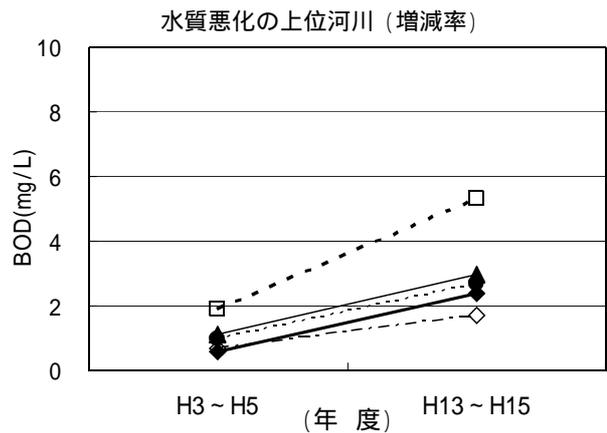
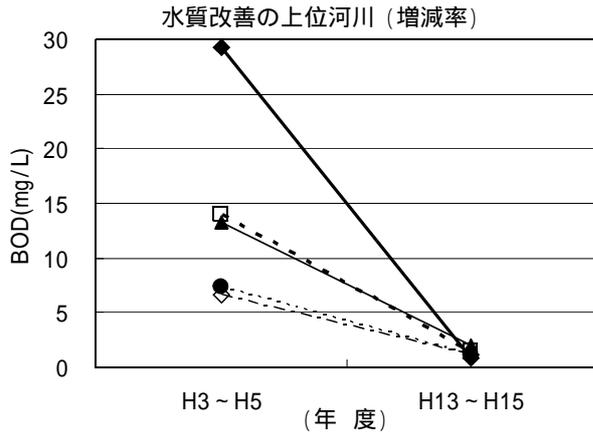


濃 度 差									
水質改善の上位湖沼					水質悪化の上位湖沼				
順位	凡例	あてはめ水域名	県名	濃度差	順位	凡例	あてはめ水域名	県名	濃度差
1		てがぬま 手賀沼	千葉県	-7.8	1		うるしざわ 漆沢ダム	宮城県	1.4
2		はるとりに 春採湖	北海道	-4.4	2		はちろうこ 八郎湖	秋田県	1.1
3		きばがた 木場潟	石川県	-2.6	〃		いんぼぬま 印旛沼	千葉県	1.1
4		じんざいに 神西湖	島根県	-1.9	〃		むろう 室生ダム湖	奈良県	1.1
5		こやまいけ 湖山池	鳥取県	-1.3	5		きたうら 北浦	茨城県	0.9
					〃		やなせ 柳瀬ダム貯水池	愛媛県	0.9

* 濃度差は、(H13～H15年度のBOD又はCOD平均値) - (H3～H5年度のBOD又はCOD平均値)

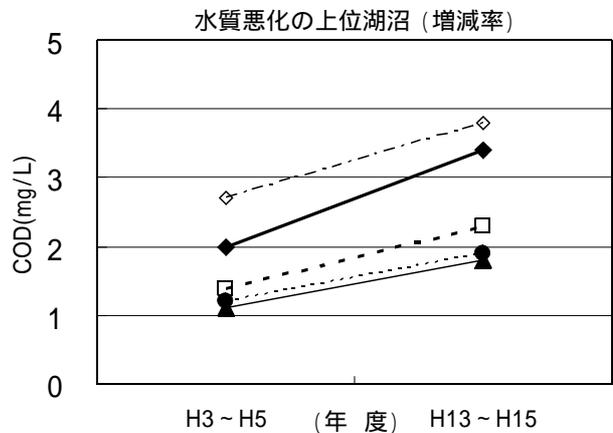
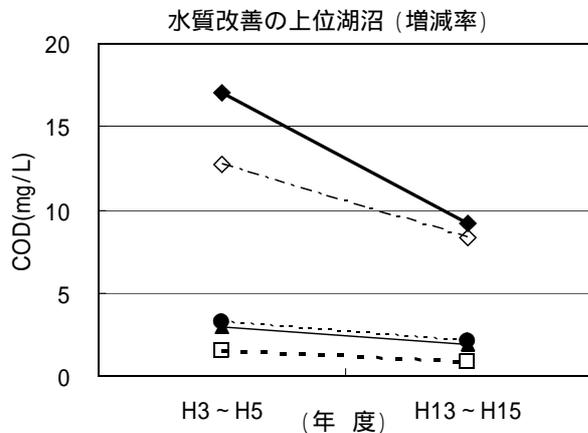
(参考10) 増減率からみた水質改善・悪化上位水域

(1) 河川における増減率 (BOD、mg/L)



増 減 率									
水質改善の上位河川					水質悪化の上位河川				
順位	凡例	あてはめ水域名	県名	増減率	順位	凡例	あてはめ水域名	県名	増減率
1		いぼがわ 揖保川下流	兵庫県	-96.9	1		あかいしがわ 赤石川	秋田県	300.0
2		しゅうがわ 夙川	兵庫県	-89.3	2		ちゅうがんしがわ 中元寺川上流	福岡県	178.9
3		みやこがわ 都川	千葉県	-85.0	3		ヤウシュベツ川	北海道	172.7
4		ふくだがわ 福田川	兵庫県	-83.8	4		ほなみがわ 穂波川上流	福岡県	170.0
5		ほりかわ 堀川上流	熊本県	-83.6	5		くしろがわ 釧路川上流	北海道	142.9

(2) 湖沼における増減率 (COD、mg/L)



増 減 率									
水質改善の上位湖沼					水質悪化の上位湖沼				
順位	凡例	あてはめ水域名	県名	増減率	順位	凡例	あてはめ水域名	県名	増減率
1		てがぬま 手賀沼	千葉県	-45.9	1		うるしざわ 漆沢ダム	宮城県	70.0
2		かぜや 風屋ダム湖	奈良県	-40.0	2		やなせ 柳瀬ダム貯水池	愛媛県	64.3
3		とよさわ 豊沢ダム	岩手県	-36.7	3		しんくう 新宮ダム貯水池	愛媛県	63.6
4		すがのこ 菅野湖	山口県	-36.4	4		くりこま 栗駒ダム	宮城県	58.3
5		はるとりに 春採湖	北海道	-34.6	5		むろう 室生ダム湖	奈良県	40.7

- * 濃度差は、(H13~H15年度のBOD又はCOD平均値) - (H3~H5年度のBOD又はCOD平均値) で算出のうえ、増減率は、濃度差 ÷ (H3~H5年度のBOD又はCOD平均値) × 100、で算出。
- * 元来水質がよい水域については、測定毎の値が、指標である増減率に及ぼす影響が大きいため、水質悪化の上位に記されている水域が必ずしも経常的に水質が悪化している訳ではない。

コラム 水質改善(濃度差)の著しい河川、湖沼における主な取り組み事例

(1) 河川での取り組み事例

揖保川下流(兵庫県)

当水域は、地場産業でもある皮革工場からの排水の影響を受け、支流の林田川での有機汚濁が著しく、環境基準が設定された昭和48年以降基準未達成の状況にあった。県では皮革排水対策として、昭和55年に前処理場での沈殿処理を開始、続いて流域下水道に接続していく方針のもとで事業展開を行ってきた。揖保川下流流域下水道は昭和63年に供用開始され、平成6年5月末には皮革排水の受け入れが完了した。また、「清流ルネッサンス21」に基づき、ヘドロの浚渫や多自然型護岸の整備、こどもたちの水生生物調査の推進等の普及啓発活動、住民団体の自主的な清掃活動など、国、県、市町及び住民による様々な水環境改善策が講じられ、約40年ぶりに鮎の遡上が見られるなど、水質が大幅に改善され、清流が復活した。

武久川水系(山口県)

当水域は水量が少なく、生活排水や産業排水による汚染影響を受けやすい河川である。高度成長期に流域人口が急増したため、生活排水対策が追いつかず、汚染状態が全国ワースト5に入ったこともあった。下関市では、平成2年から下水道整備を進め、平成8年には流域の下水道普及率80%を達成した。一方、流域住民の河川の愛護意識も高く多数の愛護団体が存在し、コイの放流、護岸清掃、河川の監視等、大人から子供まで地域ぐるみで息の長い取り組みを続けてきた。現在では環境基準に適合する地点も現れるほど水質は改善し、魚や亀が泳ぐ川に生まれ変わった。

(2) 湖沼での取り組み事例

手賀沼(千葉県)

湖沼水質保全計画に基づき浄化対策を進めており、下水道の整備及び合併処理浄化槽の設置促進などの浄化対策に加え、平成12年4月から北千葉導水による浄化用水の注水(利根川の水を浄化用水として手賀沼に導水)が本格稼働したことにより、沼の水質改善が進んだ。

春採湖(北海道)

春採湖は、昭和60年から平成6年度まで全国の湖沼水質ワースト1~3位となったため、道では平成2年度に「北海道湖沼環境保全基本指針」に基づき重点対策湖沼に位置づけるとともに、春採湖の環境保全対策のため「春採湖環境保全対策協議会」が設立され、接続促進も含めた下水道の整備、アシ原や接触材による水質浄化、流入流出河川の改良、底泥の浚渫、生活排水対策の普及啓発活動等各種施策が展開されてきた。

また、平成7年度には、「清流ルネッサンス21春採湖地域協議会」が発足し、両協議会が連携して施策を講じた結果、水質が改善された。

* : 水環境改善緊急行動計画。流域の取組と一体となって、河川事業及び下水道事業を推進し水環境の改善を図る国土交通省の施策。詳しくは国土交通省HP
(http://www.hrr.mlit.go.jp/press/news/h130810/4_7.pdf) 参照。